

流行しはじめる7月までに 異常産関連ウイルスワクチンを接種しましょう！

牛アルボウイルス調査結果について

アカバネのワクチン流行期は過ぎましたが、全国の抗体保有状況の調査によると・・・
アカバネ病に関して8月中旬の調査時点で抗体が陽転した可能性が高い地域が出ています。
また、H28年3月、5月に三重県の2農場で各1例ずつ発生が認められています。
なお牛流行熱、イバラキ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症については、8月時点で抗体陽転はありませんでした。

アカバネ病とは・・・

▷疫学

我が国ではウシヌカカ（図1）が主要なベクターになっていると考えられる。九州以北では、夏から秋にかけてウイルスの伝播が起こり、冬期には終息する。胎子感染による死産や先天異常を持った子牛の分娩は、伝播が起こった年の冬から翌年の春にかけてみられる。分離ウイルスの遺伝子解析から、複数の遺伝型が日本に入れ替わりに侵入し、一過性の流行を繰り返していると考えられている。

▷臨床症状

妊娠動物が感染すると、流産、早産、死産または、四肢の関節彎曲や脊柱彎曲などの体形異常や、水無脳症（大脳欠損症）などの中枢神経異常を伴う先天的な奇形がみられる。これらの症状をまとめて「異常産」と呼称している。しかし、感染した妊娠動物がすべて発症するわけではない。また、流行株によっては、生後感染により子牛や育成牛に脳脊髄炎を起こし、発症牛の多くで後肢あるいは前肢の麻痺を伴う起立不能や運動失調などの神経症状が観察される。

（図1）動物衛生研究所ホームページより



左：コガタアカイエカ
右：ウシヌカカ



アルボウイルスは西日本、特に九州で被害をもたらしてきました。しかし温暖化などの気候変動がウイルスを媒介する吸血昆虫に影響しウイルスの流行時期が早くなったり、流行地域が北上したりする傾向がみられ、全国的に問題になってきています。免疫がない状態でウイルスが侵入すると大変危険です。

アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病は異常産3種混合ワクチンで予防できます。

異常を認めた場合は、すぐに家畜保健衛生所へ
連絡してください

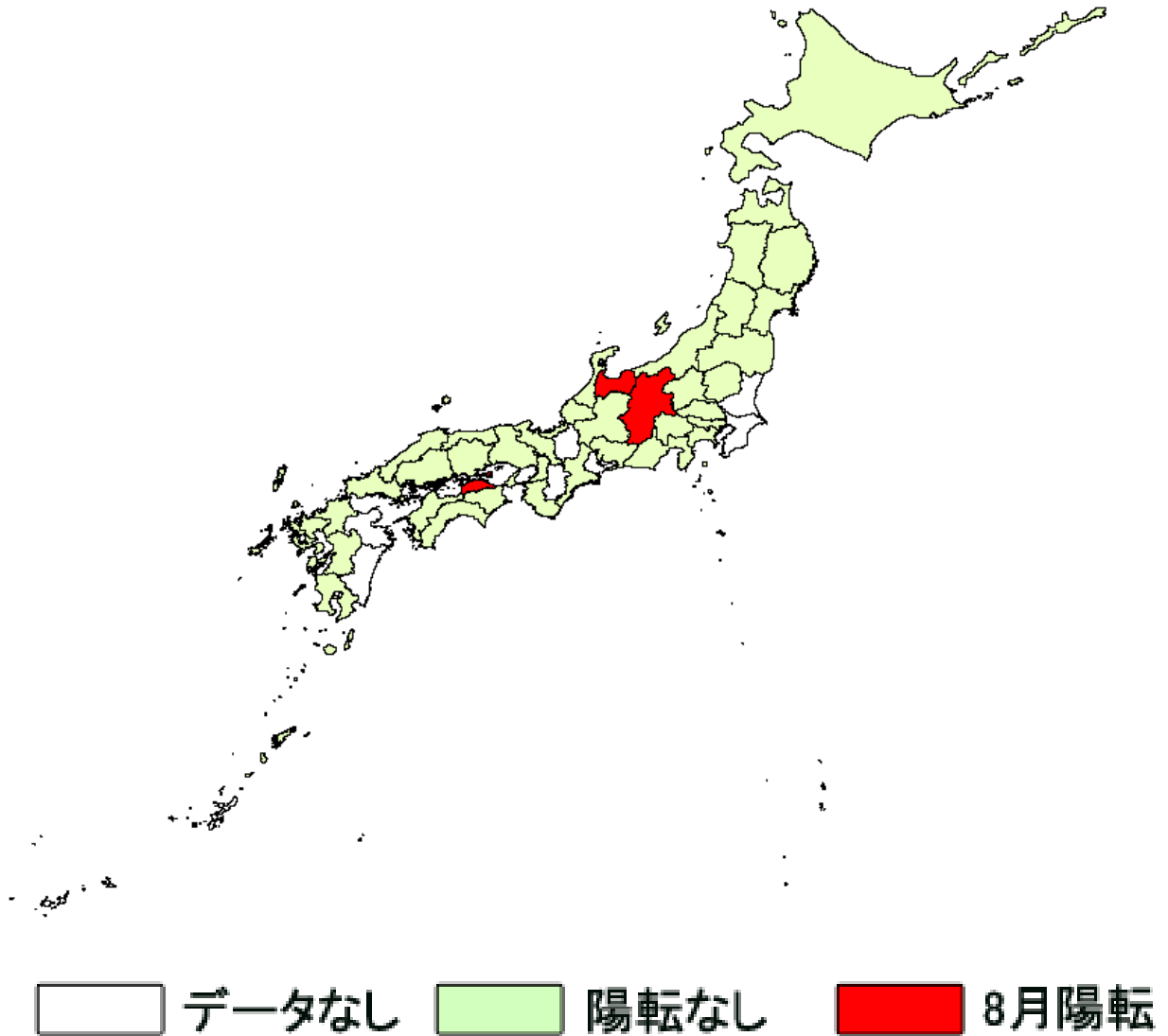
0574-25-3111

●閉庁時は案内に従い「1」番をプッシュしてください
つながらない場合は **0574-25-3484** へ
土日・祝日、閉庁時も通報を受け付けます

中濃家畜保健衛生所

TEL 0574-25-3111 FAX 0574-27-3092

アカバネ病の抗体調査



牛流行熱、イバラキ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症については、8月時点で抗体陽転はありませんでした。

中濃家畜保健衛生所

TEL 0574-25-3111 FAX 0574-27-3092